

## 基本構想将来像の副題に関する意見・提案（要約）

### 【西村清昭委員】

- ・副題案「～二つのアルプスと美しい桜と蕎麦 個性豊かな魅力で世界と結ばれるまち～」
- ・「二つのアルプス」「美しい桜」「そば」という個性的な魅力を通じて、観光の振興を図り、経済への潤いをもたらす。インバウンドによる外国人観光客が情報発信することにより、観光客の循環も起こり、伊那市が世界と結ばれ、さらなる創造と循環が生まれる。

### 【木下三千代委員】

- ・「循環」という言葉には、深く広く様々な意味があり、副題があった方が分かりやすい。
- ・地域、人、環境、文化、教育などの「善い流れ」を方向付けるようなものが良い。

### 【伊藤易明委員】

- ・「循環」は、説明を受ければ十分理解できるが、全市民に理解され、浸透する将来像が望ましい。
- ・元気な伊那市民の意志と意気を表す「躍動」を用い、「新たな創造と躍動のまち」を提案する。

### 【平賀裕子委員】

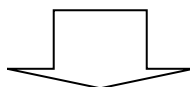
- ・副題案として
- ①「懐かしい未来へ」（イーナムービーズでも使用。過去に学び、歴史文化を尊び、未来へ向かう）
- ②「自然とともにある安寧な暮らしと活力ある地域へ」、③「歴史・文化という縦糸と、人・地域・自然という横糸で織りなす未来」（自然と地域と人の暮らしにフォーカスを当てることを表現）
- ④「ソーシャルフォレストリー都市を目指して」（50年の森林ビジョンを掲げ、取り組むまち）
- ⑤「過去に学び、心豊かな循環型のまち・協働の未来を創る。」

### 【鈴木孝敏委員】

- ・伊那市らしさの点で「二つのアルプス」に触れないわけにはいかない。
- ・第2次総合計画の将来像は、現計画と同じ「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」とし、副題を「未来を織りなす創造と循環のまち伊那市」とするのが良い。
- ・「循環」は、人・心・もの・仕事・自然などのつながりを表していることを説明文で示す。

#### ■意見・提案から

- ・伊那市の自然環境を表す表現として「二つのアルプス」が適当。地域と人のつながりや歴史や文化を大切にする、活力のあるまちのイメージが好ましい⇒**現計画の将来像・副題と一致**
- ・「循環」は、様々な循環、良い流れを表現したい⇒**説明が必要**



- ・第2次計画の将来像は、現計画の将来像を踏襲した上でステージアップして掲げるものであること、また、「循環」を補足する内容について、将来像の序文で明示しました。
- ・これらの背景を含め、広く将来像として市民の皆さんに浸透するよう周知します。

## 第2章 将来像

私たちは、南アルプスや中央アルプスなどの雄大な山々に抱かれ、春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の雪景色など、四季折々の景観の中で、季節感あふれる生活を営んでいます。

このすばらしい自然と先人のたゆみない努力によって築かれた歴史・文化・伝統に新たな価値を見出し、地域の資源に磨きをかけて、新たな躍動の風を吹き込み、暮らしやすく平和で希望に満ちたまちづくりを進める必要があります。

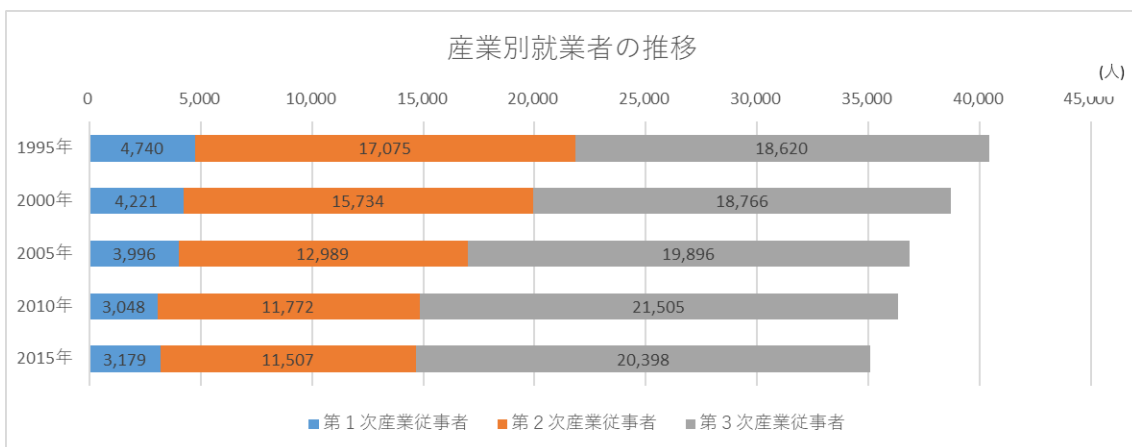
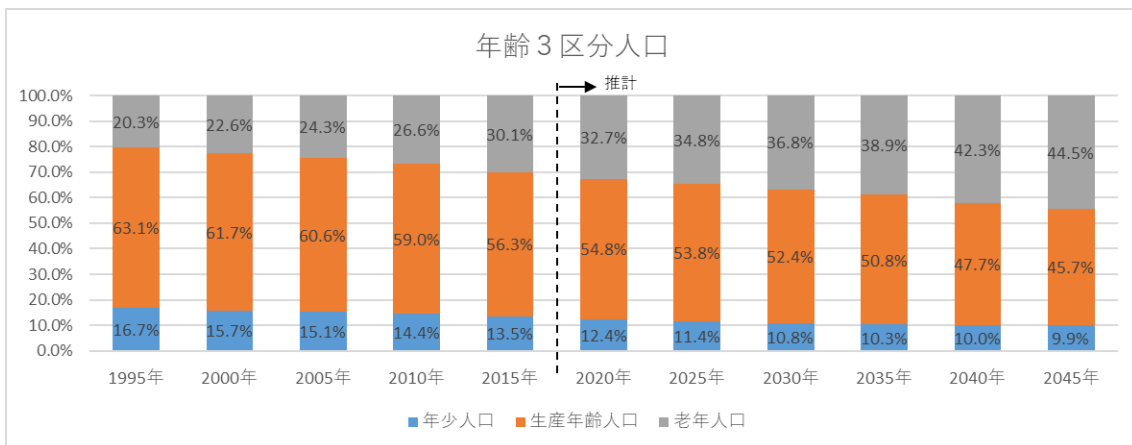
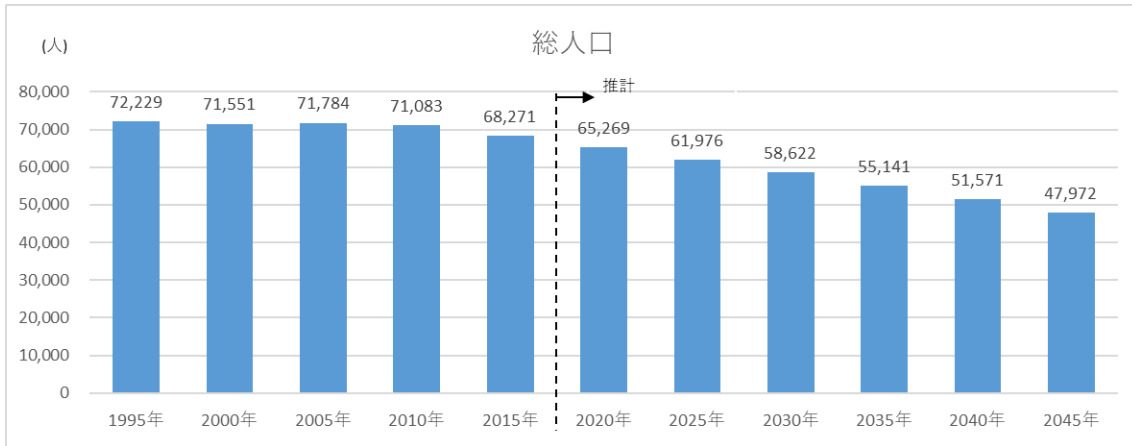
第1次総合計画では、自然と人が共生し、様々な産業が自然と調和して発展するまちを目指し、「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市 ～人と歴史と文化を育む 活力と交流の美しいまち～」を将来像に掲げ、その実現に取り組んできました。第2次総合計画では、これを基本として踏襲した上で、共生から協創へと、より能動性をもってステージアップし、この地に暮らす私たちが共に力を合わせて、将来にわたり持続可能で輝かしい伊那市の未来を築いていくために、新たな将来像を次のように定めます。

### 未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市

この将来像は、歴史や文化を「縦糸」に、自然を「横糸」にして、輝かしい未来を織り上げていく市の姿を描くとともに、様々な主体が連携し、創造を繰り返しながら、人の知恵、経験や技術と、自然の恵みである資源や、その活用による産業などが過去からの時間軸と地域間の枠を超えて循環することによって効果が生まれ、その効果が相互に作用して更なる効果を生み出す、そうした循環が連鎖する力強い市の姿を表しています。

将来像を実現するための基本目標を次のように定めます。

## 第4節 主要指標



【資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 地域別将来推計人口（平成30(2018)年推計）】